

I. 地域公共交通を活性化・再生するための今後の方向性

1. 地域公共交通ネットワークの形成

- ◆交通圏全体を見据えた再構築
- ◆効率的で生産性の高い地域公共交通ネットワークの形成
- ◆地域の実情にあったネットワークの形成

2. 公共交通の利便性の向上、需要の創出

- ◆情報提供の充実／施設・設備の改善による利便性向上
- ◆データの収集、共有、分析、活用
- ◆地元需要の拡大／域外からの旅客の誘致
- ◆地域密着型の多角化

3. 新たな課題への対応 (運転者不足、車両の老朽化、自動運転、高齢者の移動手段等)

II. 各主体に期待される今後の取組

交通事業者
【経営力の強化】

地方公共団体
【交通政策の実行力の向上】

地域住民
【意識改革と主体的参画】

国 【各主体の後押しと環境整備】

1. 地域公共交通ネットワークの形成のあり方

◆交通圏全体を見据えた再構築

将来的な地域ビジョンを明確にししながら、交通圏全体を見据えた地域公共交通ネットワークの検証・再構築が必要。需要動向を見据えた上でふさわしい交通モードの選択を図ることが重要であるとともに、利便性と効率性のバランスを見つつ持続可能性の向上を図る必要。土地利用などコンパクトシティへの取組を支えつつ、誘導する必要。

◆地域の実情にあったネットワークの形成

路線が果たすべき役割を明確にし、地域の実情にあわせて路線の強化、需要に応じた運行形態、輸送力や運行頻度の設定やその他きめこまやかな地域内交通サービスの提供を行う必要。また、乗り継ぎ時の利便性とわかりやすさの確保が重要。

◆効率的で生産性の高い地域公共交通ネットワークの形成

重複する路線の設定のような非効率が生じないよう、ネットワーク全体での利便性と効率性の向上を図る必要。スクールバス等の一体化も必要。

2. 公共交通の利便性の向上、需要の創出

◆情報提供の向上による利便性向上

経路検索等の全国網羅的な情報提供の実現とともに、地域の公共交通マップ等の地域の情報提供の充実を促進する必要。

◆施設・設備の改善による利便性向上

病院やスーパー、観光施設や「道の駅」等にバス停を設置したり、上屋やベンチを整備することにより、快適な待合環境を実現する必要。

◆データの収集、共有、分析、活用

様々な手法を活用して旅客の移動データを収集、共有するとともに、データを活用して運行や経営の改善に役立てる必要。

◆地元需要の拡大

地域公共交通の潜在的な利用者や確実な需要が見込まれる層の取り込みが必要。

◆域外からの旅客の誘致

観光資源を活用した需要創出のため、公共交通を利用した観光ルートの情報提供が必要。

◆地域に密着したサービスの提供による多角化（「生活総合サービス」化）

旅客運送と併せて実施可能な様々なサービスを提供する「生活総合サービス」化や、貨客混載が重要。